

編集・発行 大阪障がい者スポーツ指導者協議会 広報部 令和5年2月1日 第86号

<http://osaka-adspo.org/>

平素は大阪障がい者スポーツ指導者協議会の活動にご協力頂きありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年、日常では with コロナへと舵を切り始める一方で、自然災害や社会情勢の変化など安心できる生活は取り戻せていない状況ですが、会員の皆様には様々なご尽力を頂いて参りましたことを改めて感謝申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う感染拡大防止策が緩和され、各所で研修会大会や活動が行われるようになりました。本協議会でもその情勢を鑑みて、令和3年度研修会および令和4年度総会・基調講演会を3年ぶりに実施することが出来ました。開催にあたって急な感染者数増加による影響を回避するため、対面とオンラインのハイブリット型の開催様式を導入し、多数の方にご参加いただきました。新たな試みとして至らない点もございましたが、皆様のご協力の下、無事に開催することができました。心よりお礼申し上げます。

さらに、昨年令和4年10月には多くの方が待ち焦がれていた全国障害者スポーツ大会が4年ぶりに開催され、大会を目指して頑張ってきた選手の皆様や、多くの関係者の笑顔が集まりました。

今回、大阪障がい者スポーツ協議会広報部では、その素晴らしい選手の笑顔と有志を多くの会員の皆様にお伝えするため、報道員として参加し、その内容を特集にして綴りました。

もくじ

・令和3年度研修会	2ページ
・令和4年度総会・基調講演	2 - 3ページ
・令和5年度総会・基調講演のご案内	3ページ
・ 特集！ 全国障害者スポーツ大会『いちご一会とちぎ大会』	4 - 8ページ
・ 編集後記	8ページ

令和3年度研修会の報告

松浦 春代

令和4年3月7日(日) ファインプラザ大阪で令和3年度の研修会が行われました。大阪体育大学教育部・曾根裕二さんをお招きし、東京2020パラリンピック競技大会～ボッチャ競技に帯同して～のお話をして頂きました。

開会式に車椅子の方が選手村から会場に向かうのに時間がかかってしまい、早い時間から動き始め終わってから帰るとかなり遅い時間になる。そうすると試合に対してのパフォーマンスに影響があるので人数調整などをして開会式に参加した事や、選手団に配布されたスーツやユニホーム等々、着用する場所などの内容も聞きました。

ボッチャはBC1～BC4の4つのクラスに分かれています。元々はBC1・BC2は脳原性疾患のみでしたが、自分の手で投げられない人はどうすれば良いのかということで、ランプを使って競技するBC3ができ、BC4は脳原性疾患以外(頸椎損傷や筋ジストロフィー)の方もできるようになったという事でした。

特にスライドや動画を見ながら、選手村・競技会場・食事や交流の様子、また試合動画ではジャックボールに対してファーストボール、有利になるように進める作戦、選手の技術、ボッチャの面白さなどを説明して頂きました。

講演の後半には、障がい者スポーツ指導者として活躍していくために、配布資料に沿って「活動により体得できる知見や活動への満足度」なども話されました。

「地域の支援学校の子もたちを呼んで、大学の施設を使って運動教室をしている。なかなかスポーツを楽しめず状況を作ることができない現状もあるけど、少し工夫をすることで、今まで見たことがない表情であったり、うまくシュートなどが決まると、ドヤ顔をする。スポーツの力は、すごいと思う。ドヤ顔を見るために色々な教材を工夫したり、指導方法を考えたりする。答えはないけれど、おもしろい！答えがないから、おもしろい！」と先生自身のパラスポーツの関わりも語って頂きました。

自国で行われた東京2020パラリンピック競技大会を、コロナの影響で応援に行くことはできなかったけれど、ボッチャを身近なスポーツとして活動できればと思います。

また、研修会にあたってはコロナウイルス感染の拡大を防ぐため、ZOOMと会場参加の2通りの体制で行いました。(研修会の配布資料は、大阪障がい者スポーツ指導者協議会ホームページに載せています。)

令和4年度基調講演の報告

松浦 春代

令和4年4月24日(日) 年次総会の基調講演に、国立舞鶴工業高等専門学校修学支援室・特命教授・後野文雄(ごのふみお)さんの、「障がい者への理解の向上」～発達障がいの理解と具体的な指導・支援について～を聞きました。

まず、発達障がいは、先天性の機能障がいであって親の育て方が悪いということは決してない。生まれながらにして脳の機能が働かない。子どもが悪いわけでもない、環境が悪いわけでもない。ただ認知障がいは少しある。ということから始まりました。講演では、配付資料をスライドに映して頂き、発達障がいの理解を深めるためのお話をたくさんして頂きました。

- ・集団で遊べない、話が聞けない、自分でできないは幼稚園の子ども達の特徴で、コミュニケーション力の弱さ、落ち着きがない、うろろする、注意集中に欠ける、

巧緻運動が苦手は発達障がいの中に該当している。

・体力→身心の健康、耐力→我慢する力（葛藤）、帯力→つながる力（人間関係）の3つの「たい力」が大切だと思う。帯力は後野先生自身が考えた漢字だそうです。

・障がいのある方もない方も一緒に行いましょう。今の時代は、一人ひとり障がいが違う。その人にあった教育をしよう。合理的配慮が提供される等が必要。合理的配慮とは、平等ではない。皆と同じにしてもできないから支援する。合理的配慮で必要な配慮は提供しなければならない。

たとえば、姿勢が悪い。きちっと座ることができず背骨を真っ直ぐ立てることが苦手な子がいる。「ちゃんとしなさい」だけでは直らない。このような場合、椅子に肘掛けや、姿勢を保持するための配慮とかが必要となる。

・発達障がいのさまざまな特性を理解していけないと、不登校、暴力、暴言、ひきこもり、器物破損、藩校、反社会的行動、学習意欲の低下、いじめ問題等々、こういった問題は、大人が対応を誤ると子ども達はストレスをコントロールできなくなる。

・自分以外の人、自分の見ているもの（同じモノをみている・同じ形に見えている・同じ色を見ている・同じ明るさを感じている・同じ音を聴いている・同じ温度を感じている・同じ感情をもっている）と違うことを自覚する。

最後に「私たちの周りには、発達障がいの方がたくさんおられます。困っている状態に寄り添って頂きたい」と言われました。

上記の内容は、ほんの少しですが印象に残った箇所を取り上げました。また、機会があれば是非聞きたい内容ばかりでした。基調講演は ZOOM と会場参加の 2 通りの形態で行いました。

（基調講演の配布資料は、大阪障がい者指導者協議会ホームページに載せています。）

（引用：配付資料）



令和5年度総会・基調講演のご案内

日 時 : 令和5年4月23日(日)
場 所 : たかつガーデン 8階 東中 (大阪市天王寺区東高津町7-11)
基調講演 : 『ペップトーク』 講師 菅野 輝史

※お申込み等、詳細は後日お知らせいたします。

大阪府・陸上競技			
氏名	種目名	記録	順位
朝野 由貴	ソフトボール投げ	16m17cm	①
	100m	43秒75	3
金山 英樹	砲丸投げ	14m39cm	1
	ソフトボール投げ	77m58cm	1
鐘ヶ江 悟	50m	18秒66	3
	ピーンバック投げ	9m91cm	2
河上 真貴子	100m	19秒26	1
	ジャベリックスロー	7m62cm	3
中島 竜二	ソフトボール投げ	57m65cm	2
	立幅跳び	2m16cm	1
濱田 和代	50m	8秒49	1
	立幅跳び	1m96cm	1
松井 翔平	ジャベリックスロー	55m17cm	1
	100m	12秒82	5
橋 良雅	100m	11秒59	2
	走幅跳び	5m40cm	4
藤本 匡哉	100m	12秒26	2
	200m	25秒06	2
南 智司	200m	25秒47	2
	400m	54秒71	2
諸岡 晃	800m	2分12秒11	4
	1500m	4分50秒81	5
諸岡 華	走幅跳び	3m87cm	1
	100m	16秒65	6
山田 真生	100m	11秒94	2
	200m	24秒98	5
山本 汐音	100m	16秒16	4
	走幅跳び	3m04cm	5

堺市・陸上競技			
氏名	種目名	記録	順位
秋山 正輝	ジャベリックスロー	34m33cm	1
	砲丸投げ	9m70cm	2
市川 恭子	ソフトボール投	26m28cm	2
	砲丸投	6m03cm	3
増戸 拓未	100m	14秒66	3
	走幅跳び	3m90cm	2
平井 良和	200m	25秒26	4
	400m	57秒31	3
田中 樹	1500m	5分01秒79	8
	800m	2分27秒32	8
吉川 瑛葉	200m	31秒78	5
	400m	1分13秒03	3
藤井 健大	100m	13秒93	7
	200m	29秒35	7
皆川 理久	ソフトボール投げ	51m80cm	7
	100m	14秒35	8

大阪府・陸上競技			
氏名	種目名	記録	順位
岡井 明子	スラローム	45秒20	①
	ジャベリックスロー	5m43cm	1
岡部 和人	砲丸投げ	10m69cm	2
	ジャベリックスロー	25m42cm	2
梶 久己	砲丸投げ	11m19cm	①
	ジャベリックスロー	22m76cm	1
片山 住子	ジャベリックスロー	6m55cm	①
	100m	33秒69	2
川合 裕人	砲丸投げ	8m08cm	1
	立幅跳び	1m58cm	1

いちご一会とちぎ大会
第22回全国障がい者スポーツ大会
 夢を感動へ。感動を未来へ。
令和4年10月29日~31日

大阪市・水泳			
氏名	種目名	記録	順位
太田 祥都	50m平泳ぎ	1分07秒91	2
	25m自由形	29秒11	2
谷口 和弘	25m自由形	18秒39	1
	50m自由形	42秒58	2
横江 健太	25m自由形	24秒20	1
	50m自由形	51秒40	2
宮口 陽邑	25m自由形	15秒68	1
	50m自由形	34秒88	1
森田 竜一	25m自由形	19秒75	1
	50m自由形	43秒95	1
高木 紗知	50m背泳ぎ	35秒32	1
	50m自由形	31秒66	④
津川 拓哉	25m背泳ぎ	14秒24	1
	50m背泳ぎ	30秒07	1
都築 奈津子	50mバタフライ	36秒49	2
	50m背泳ぎ	39秒59	4
前田 思偉	25mバタフライ	12秒61	①
	50mバタフライ	27秒73	2
前田 直偉	25m平泳ぎ	15秒43	1
	50m平泳ぎ	33秒20	2
箕浦 のどか	50m背泳ぎ	33秒24	①
	25mバタフライ	15秒06	①

大阪府・フライングディスク			
氏名	種目名	記録	順位
東 暁	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	4
	ディスタンスメンズ・スタンディング	41m12cm	2
井上 伊緒菜	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	2
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	38m53cm	3
織谷 孝司	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	7投	7
	ディスタンスメンズ・スタンディング	36m75cm	4
来田 綾	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	10投	1
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	36m19cm	1
中山 ミツ子	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	4
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	25m49cm	2
村田 貞男	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	4
	ディスタンスメンズ・スタンディング	36m35cm	3
吉川 実来	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	4投	7
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	28m15cm	6
浅山 ひなた	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	5
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	46m40cm	1
小滝 一徳	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	4
	ディスタンスメンズ・スタンディング	44m53cm	1
田中 蒼真	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	7投	6
	ディスタンスメンズ・スタンディング	43m56cm	2
中野 短嗣	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	1
	ディスタンスメンズ・スタンディング	42m84cm	4
濱野 靖男	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	3
	ディスタンスメンズ・スタンディング	46m54cm	2
無笹 愛菜	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	4
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	52m57cm	1

堺市・水泳			
氏名	種目名	記録	順位
中塩屋 葵	50m自由形	59秒02	1
	25m自由形	25秒60	1
戸口 佳世子	25m自由形	22秒29	3
	50m自由形	52秒55	3
菅原 和也	25m自由形	15秒89	6
	50m自由形	37秒06	8

大阪府・水泳			
氏名	種目名	記録	順位
稲葉 潤也	50m自由形	42秒18	1
	50m平泳ぎ	57秒54	1
長尾 慶士	50m自由形	36秒40	1
	50m平泳ぎ	44秒38	1
中島 彰	25m自由形	20秒80	1
	25m背泳ぎ	25秒61	1
宮川 珠和	50m自由形	38秒17	2
	50m平泳ぎ	51秒17	1
勝部 颯馬	50m平泳ぎ	32秒44	2
	50mバタフライ	27秒67	2
橋高 孝太	50m自由形	27秒00	3
	50m背泳ぎ	31秒92	3
木下 愛来	50m自由形	27秒78	①
	50mバタフライ	30秒19	①
関 ケビン	25m自由形	11秒30	①
	50m自由形	24秒09	①
出口 瑛瑚	50m自由形	25秒04	1
	50m背泳ぎ	29秒46	1
山下 淳一	50m自由形	30秒44	2
	25mバタフライ	15秒25	1

大阪市・フライングディスク			
氏名	種目名	記録	順位
阿曾 豊	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	2
	ディスタンスメンズ・スタンディング	36m15cm	1
重山 泰子	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	2
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	26m76cm	2
田辺 さゆり	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	6投	5
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	30m84cm	2
田辺 俊行	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	10投	2
	ディスタンスメンズ・スタンディング	43m22cm	2
藤川 貴	アキュラシー・ディストリー・セブン	8投	3
	ディスタンスメンズ・スタンディング	25m51cm	2
渡辺 健次	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	1
	ディスタンスメンズ・スタンディング	46m49cm	1
上原 正志	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	3
	ディスタンスメンズ・スタンディング	36m76cm	4
江田 晴彦	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	9投	2
	ディスタンスメンズ・スタンディング	34m76cm	3
平岡 浩一	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	3
	ディスタンスメンズ・スタンディング	26m89cm	6
松村 正美	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	1
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	37m05cm	3

堺市・フライングディスク			
氏名	種目名	記録	順位
羽田 加寿男	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	10投	3
	ディスタンスメンズ・スタンディング	43m83cm	3
麻生 萌樹	アキュラシー・ディストリー・ファイブ	8投	4
	ディスタンスレディーズ・スタンディング	47m60cm	1

大阪府・陸上競技			
氏名	種目名	記録	順位
木下 麻奈美	走幅跳び	4m 16cm	(1)
	ジャベリックスロー	19m 70cm	2
佐藤 公昭	100m	16秒18	1
	砲丸投げ	9m 51cm	4
内匠 浩平	立幅跳び	1m 95cm	4
	100m	15秒98	3
玉井 雅美	ソフトボール投げ	23m 30cm	1
	砲丸投げ	5m 12cm	5
辻岡 恵子	100m	17秒62	1
	ジャベリックスロー	12m 49cm	1
西田 卓司	スラローム	45秒20	1
	ピンバック投	1m 44cm	4
久井 雅人	砲丸投げ	5m 51cm	1
	ソフトボール投げ	13m 58cm	1
福田 晃生	スラローム	48秒20	1
	50m	18秒29	2
牟田 彰	砲丸投げ	8 m 26cm	2
	ソフトボール投げ	30m 35cm	3
吉村 尚己	ジャベリックスロー	20m 18cm	1
	砲丸投げ	6m 29cm	2
荒木 芽夢	立幅跳び	2m 06cm	1
	100m	15秒18	4
池田 光希	100m	12秒19	2
	200m	24秒82	1
井上 翔太	1500m	4分23秒26	1
	800m	2分08秒32	3
榎倉 佑馬	100m	12秒41	4
	200m	25秒78	4
加藤 兵馬	走幅跳び	5m 03cm	3
	100m	14秒18	6
古月 拓也	50m	8秒01	6
	ソフトボール投げ	68m 79cm	3
坂口 修平	400m	56秒51	7
	200m	25秒25	2
清水 優大	走幅跳び	4m 50cm	1
	100m	13秒89	6
原口 知秀	100m	12秒68	(1)
	200m	26秒61	1
東 千優	100m	14秒25	2
	200m	29秒29	1
宮浦 健悟	800m	2分06秒60	1
	400m	56秒14	4
宮本 寛也	100m	12秒44	3
	200m	25秒83	3
森上 戴斗	800m	2分04秒51	1
	1500m	4分25秒48	3
山口 厚也	1500m	4分30秒57	4
	800m	2分13秒03	4
山口 拓海	100m	12秒14	4
	走幅跳び	5m 49cm	3
山下 愛羅	800m	2分53秒67	4
	走幅跳び	43m 19cm	3

大阪府・水泳(メドレーリレー 4×50m)			
メンバー	記録	順位	備考
忠偉・前田 直偉・箕浦 のどか	2分00秒97	1	大会新記録
大阪府・水泳(メドレーリレー 4×50m)			
メンバー	記録	順位	備考
出口 瑛瑚・勝部 颯馬・木下 愛来・関 ケビン	1分56秒25	1	大会新記録

大阪府・卓球			
氏名	種目名	記録	順位
伊藤 信子	一般卓球		3 2
柴田 昌俊	一般卓球		4 1
宮前 貴浩	一般卓球		4 1
山田 優	一般卓球		6 1
石倉 美栄子	STT		2 3
緒方 碩	一般卓球		4 1
黒木 勝	一般卓球		6 1
田村 悠都	一般卓球		5 1
山口 裕也	一般卓球		2 3
和田 なつき	一般卓球		2 4
野田 拓治朗	一般卓球		4 3

大阪府・ボッチャ			
氏名	種目名	記録	順位
正野 至誠	ボッチャ		3 2
松本 セナ	ボッチャ		3 2

堺市・ボッチャ			
氏名	種目名	記録	順位
徳永 朱希	ボッチャ		4 1
山村 輝雄	ボッチャ		4 1

大阪府・ボッチャ			
氏名	種目名	記録	順位
岩根 正典	ボッチャ		4 1
川地 裕太	ボッチャ		4 1

大阪府・アーチェリー			
氏名	種目名	記録	順位
林 富美子	コンパウンド50m・30mラウンド	614点	1
藤崎 義人	コンパウンド30mダブルラウンド	682点	(1)

堺市・アーチェリー			
氏名	種目名	記録	順位
村田 義広	リカーブ50m・30mラウンド	653	2

大阪府・アーチェリー			
氏名	種目名	記録	順位
上山 友裕	リカーブ50m・30mラウンド	663	(1)

大阪府・陸上競技(リレー 4×100m)			
メンバー	記録	順位	備考
橋 良雅・藤本 匡哉・諸岡 華・山田 真生	50秒27	3	

堺市・陸上競技(リレー 4×100m)			
メンバー	記録	順位	備考
平井 良和・吉川 瑛葉・藤井 健太・皆川 理久	53秒14	7	

大阪府・陸上競技(リレー 4×100m)			
メンバー	記録	順位	備考
池田 充希・榎倉 佑馬・東 千優・山口 拓海	48秒67	3	

大阪府・バスケットボール(男子)			
一回戦	対戦相手	スコア	結果
一回戦	大阪市	071 - 54	● 栃木県
準決勝	大阪市	073 - 92	○ 福岡市
3位決定戦	大阪市	057 - 80	○ 秋田県

堺市・バスケットボール(女子)			
一回戦	対戦相手	スコア	結果
一回戦	堺市	025 - 87	○ 東京都
交流戦	堺市	019 - 24	○ 秋田県

大阪府・卓球			
氏名	種目名	記録	順位
宇佐美 保弘	一般卓球		4 1
寺田 建男	SSIT		3 2
前口 美奈子	一般卓球		3 1
松村 好郎	一般卓球		5 2
大北 和輝	一般卓球		3 2
高橋 菜緒	一般卓球		3 2
原田 拓治	一般卓球		2 3
今市 真喜子	一般卓球		6 1
藤本 大輝	一般卓球		4 3

堺市・卓球			
氏名	種目名	記録	順位
草野 春雄	一般卓球		5 2
川口 和也	一般卓球		3 2
中嶋 良典	一般卓球		5 2
田代 純子	一般卓球		4 1

大阪府・ボウリング			
氏名	種目名	記録	順位
清水 和美	ボウリング	637	1
中島 千佳	ボウリング	640	2
平野 優輝	ボウリング	823	1
山本 猛	ボウリング	793	1

堺市・ボウリング			
氏名	種目名	記録	順位
山本 哲也	ボウリング	612	2
熊澤 陽平	ボウリング	592	5

大阪府・ボウリング			
氏名	種目名	記録	順位
浅野 真美	ボウリング	782	2
大川 勇治	ボウリング	691	2
木下 毅	ボウリング	552	6
日野 達貴	ボウリング	727	1
松田 知佳	ボウリング	486	5
松富 琉也	ボウリング	765	1

大阪府・バレーボール(精神)			
一回戦	対戦相手	スコア	結果
一回戦	大阪府	02 - 1	● 東京都
準決勝	大阪府	02 - 0	● 福岡県
決勝	大阪府	02 - 1	● 青森県 優勝

大阪府・バレーボール(観覧・女子)			
一回戦	対戦相手	スコア	結果
一回戦	大阪府	02 - 0	● 長崎県
準決勝	大阪府	02 - 0	● 栃木県
決勝	大阪府	02 - 0	● 岐阜県 優勝

大阪府・バレーボール(観覧・男子)			
一回戦	対戦相手	スコア	結果
一回戦	大阪府	02 - 1	● 栃木県
準決勝	大阪府	02 - 1	● 三重県 優勝

特集 第22回全国障害者スポーツ大会

いちご一会とちぎ大会

場所 カンセキスタジアムとちぎ



令和4年10月29・30・31日の3日間、晴れ上がった青空の下、第22回全国障害者スポーツ大会が栃木県で開催され全国より集まった選手たちがそれぞれに努力の成果を披露した。大会の愛称は『いちご一会とちぎ大会』。いちごの生産量が半世紀にわたって

日本一の栃木県、その『いちご王国』で行われる大会に参加するすべての人々が、県民の心のこもった様々なおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれる大会となるよう名称にはそんな願いが込められていた。

本大会は2019年茨木大会が台風による中止、2020年鹿児島県大会は新型コロナウイルス感染症のため延期(2023年に開催予定)、2021年三重県大会も同じく新型コロナウイルス感染症により中止となり、4年ぶりの開催となった。

全国障害者スポーツ大会1)は、障がい者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした障がい者スポーツの祭典である。今大会スローガンは、「夢を感動へ。感動は未来へ。」

「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”で開催された『一会とちぎ大会』は「思いやりの心を広げよう!」「感動を未来へつなげよう!」「とちぎの元気を届けよう!」「スポーツの力を実感しよう」の4つの基本方針の下、東京パラリンピックのレガシーを受け継ぎ、スポーツを通じて障害に対する理解を深め、障がい者の社会参加に寄与し、障害のある人もない人も共に生きる社会を目指すとともに、とちぎの元気を全国へ発信する大会とすることが謳われた。

(第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」実施要項より一部引用)

1) 全国障がい者スポーツ大会

昭和39年に開催された東京パラリンピックをきっかけにその翌年から始まった大会で、公益社団法人日本パラスポーツ協会をはじめ、文部科学省や都道府県・指定都市が開催し、毎年国民体育大会(国体)のあと、同じ開催地で行われている。参加資格は身体障害者、知的障害者、精神障害者の手帳の交付を受けた障害者またはその取得対象に準ずる障害者のうち、13歳以上の人である。対象者が3障害となった経緯は、1965年から2000年まで実施されていた全国身体障害者スポーツ大会と1992年から2000年まで実施されていた全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)を統合し、2001年に第1回大会が宮城県で開催された。2008年には精神障害者が正式に参加することとなり、身体障害者、知的障害者、精神障害者の3障害の選手が参加する大会となった。選手選考の配慮として、都道府県・指定都市における選考について、地域の障害者スポーツの復興を図る観点から、これまでの全国障害者スポーツ大会、全国知的障害者スポーツ大会及び、全国障害者スポーツ大会出場未経験者の出場に配慮するとしている。できるだけ多くの障害者が参加できるように配慮されている。実施競技は、正式種目として個人競技7種目、団体競技7種目、計14種目、参加者約3,640名、役員数約2,000名、計5,500名を超える予定人数で実施された。

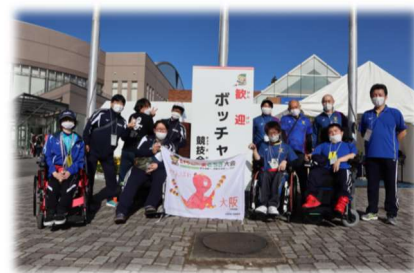


ボッチャ競技 (29日30日)

今大会より正式種目として開催されたボッチャ競技。正式種目に採用されたのは昨年度であり、当時の開催地だった『三重とこわか大会』で初の開催が予定されていた。しかし、当時、ボッチャ競技実施期間は三重県へのCOVID-19の影響による「まん延防止等重点措置」の適応期間中であつたため止む無く中止となり、それまでトレーニングを重ねてきた選手らは肩を落とすこととなった。そのような経緯を経て、今大会『いちご一会とちぎ大会』にてボッチャ競技が正式種目として初の開催を迎えた。会場は

開・閉会式会場（カンセキスタジアムとちぎ）より北に離れた那須塩原市にある三和住宅にしなすのスポーツプラザ体育館で行われた。競技は本大会の大会競技規則が採用。特徴として、チーム編成は男女の区別なく、立位選手1名及び座位選手1名にてチームを構成。競技方法は3チームまたは4チームのプールに分かれ、各プールにてリーグ戦を行う。また、試合は1対1の個人戦を2エンド行い、2エンドの総得点で勝敗を決

定する。参加都市は54、うち大阪府・大阪市・堺市の各2名の選手が出場した。大阪府はCプール鳥取県と千葉市と対戦。結果は2-1、2-1と勝利、得点4で1位となった。大阪市はDプール三重県と山口県と対戦。結果は1-2、2-1得点3で2位となった。堺市はGプール栃木県と宮崎県と対戦。結果は2-1、2-1得点4で1位となった。3都市ボッチャ競技正式種目となった記念すべき今大会で輝かしい成績を残した。ランプを使用する選手から今大会の試合の印象を伺ったところ、『ボールが思ったように転らなかつた。』と話していた。ランプを使用する選手にとって、体育館の床面の状態を知ることは重要で、床面によって、ボールの転がりにかかり影響するため、初めての体育館では事前の練習がかかり重要とのこと。『今大会で決められていた事前練習は短時間であつたため、調整が難しかった。』と話していた。

**フライングディスク競技 (29日~31日)**

10月29日~31日に全国障害者スポーツ大会が栃木県で開催され、フライングディスクは栃木市総合運動公園陸上競技場で行われた。私は大阪府選手団のフライングディスク競技の役員として参加させてもらった。茨城大会は台風の影響で前日中止が決まり、その後はコロナの影響で中止となっていたため4年ぶり開催であった。コロナ渦で行われたということもあり、参加14日前からの体調管理とPCR検査、参加2日前の抗原検査の実施が義務付けられ、他の競技では検査結果から直前に参加できなかった選手もいたと聞いた。

コロナ以前はフライングディスクの開始式に参加者の多くがディスクを持ち、掛け声とともに一斉にディスクを投げ、青空に白いディスクが飛んでいる光景が見られた。しかし今回はディスクを投げることはなく、挨拶だけであつたため寂しく感じられた。3日間とも天候に恵まれたことは屋外競技にとっては幸いであつた。ただ、昼間は暑いくらいであっても、開催地特有の朝夕の冷えに加え、14~15時を過ぎるころには競技場で空っ風が吹くこともあり、風に影響を受ける当競技では選手を悩ませているように見えた。

車椅子の選手と共にフィールドに行く機会があり、試合前の緊張した選手の様子を間近に感じ、こちらも緊張した。また、アキュラシー競技では同枚数でのサイトがあり、手に汗握る思いで見守った。ディスタンス競技でもディスク一枚の差で順位が決まるほど、とてもいい試合が行われていた。ディスタンス競技の女子では、大会新記録が出ていた。大阪府下の選手同士は顔見知りも多く、お互いが応援しあい、健闘を称えあっていた。そして、いい記録が出た選手のところに他府県の選手が足を運んで、交流している素敵な姿が見られた。選手と共に緊張したり、感動したりと貴重な体験をさせて頂いた大会であつた。

**卓球競技 (29日~31日)**

2022年10月29日~31日に4年ぶりに全国障害者スポーツ大会が開催されました。今年は「夢を感動

へ。感動を未来へ」のスローガンのもと、イチゴの生産量が半世紀にわたって日本一の栃木県で、愛称「いちご一会とちぎ大会」として開催されました。

私は堺市選手団の卓球競技サポートスタッフとして帯同させていただきました。

卓球競技は栃木県鹿沼市のTKCいちごアリーナで競技が行われ、各都道府県・政令指定都市の代表選手が熱戦を繰り広げました。本来なら令和元年の茨城大会から精神障害者の卓球競技への参加が可能だったのですが、茨城大会は台風で中止になり、令和2年の鹿児島大会、令和3年の三重大会が新型コロナのため中止になったことから、今大会が精神障害者卓球の初大会となりました。堺市代表選手は4名（うち3名が精神障害者）参加しましたが、日々の練習の成果を存分に発揮し、4名ともメダルを獲得（金1個・銀3個）する好成績をおさめました。今大会のメダルは栃木県産の杉の無垢材を使用し、栃木県の伝統工芸品の「鹿沼組子」をモチーフにしたデザインで、それぞれ色、木目が異なるため同じものは二つとない個性豊かなメダルで選手たちも大変喜んでおりました。今大会はコロナ禍での初の大会でもあったため、大会2週間前から専用アプリを使用した健康チェック、大会5日前にはPCR検査の実施、出発当日、大会1日目と3日目に抗原検査を実施するなど、これまでとは異なる状況下での開催となりましたが堺市選手団は誰一人として体調を崩す選手、役員が出なかったことに安堵しています。また、栃木県の朝夕の冷え込みは大阪より厳しかったものの大会期間中は晴天に恵まれ日中は過ごしやすいコンディションで屋外で行われた競技の選手も好成績を残すことができました。選手の頑張りはもちろんですが、大会を支えて下さった競技役員、実施本部員、学生・地域ボランティアの皆様が気持ちよく心温まるサポートをして下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。



水泳競技（29日～31日）

植田 克彦

水泳競技は10月29日（金）～31日（日）の三日間日環アリーナ屋内水泳場において実施されました。会場となった、日環アリーナ水泳場は、この栃木国体・全国障がい者スポーツ大会開催に合わせて開場された真新しいプールで、照明もLEDライトが使用され、大変明るく、泳ぎやすいプールと選手たちからも好評でした。台風やコロナ禍による大会の中止が続き、4年ぶりに開催された大会ということもあり、ジャパンパラ水泳競技大会等に参加している日本のトップ選手も多く参加しており好記録が続出していました。そのような大会において、大会最終日の午前に行われた、少年4×50mメドレーリレーにおいて大阪市チームが2分00秒97、また、青年4×50mメドレーリレーにおいて大阪府チームが1分56秒25のそれぞれ大会記録で1位となりました。大阪市、堺市、大阪府の3チームが互いのチームを応援する姿は、まさに障がい者スポーツというより、スポーツが持つ本来の姿と思います。

バレーボール（29日・30日）

植田 克彦

29日（金）に行われた予選（トーナメント）で決勝進出が決まっていたので、30日（金）に行われていた、バレーボール（聴力）の決勝戦を会場（清原公園体育館）に伺い観戦してまいりました。バレーボール会場へは、午前中に水泳会場にいた関係で、午後1時過ぎへの会場入りとなってしまいました。幸い、男女ともに3位決定戦が行われており、また女子の3位決定戦が伸びた関係で、男女ともに決勝戦を応援することができました。女子は、攻守ともに安定しており、決勝戦も危なげなく2-0のストレートで見事、優勝！一方、男子は、うまくゲームの流れに乗ることができず一進一退の攻防が続き、辛くも2-1の僅差で優勝しました。選手の中には、ブラジルで開催されたデフリンピックの代表も含まれていると聞いていたので、安心はしていたのですが、決勝の対戦相手の三重県代表（昨年全スポ開催地（コロナ禍で中止）も、さすがに洗練された素晴らしいチームでした。

編集後記 大会に参加させていただき、改めてスポーツ活動の大切さを知ることができました。取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

広報部一同